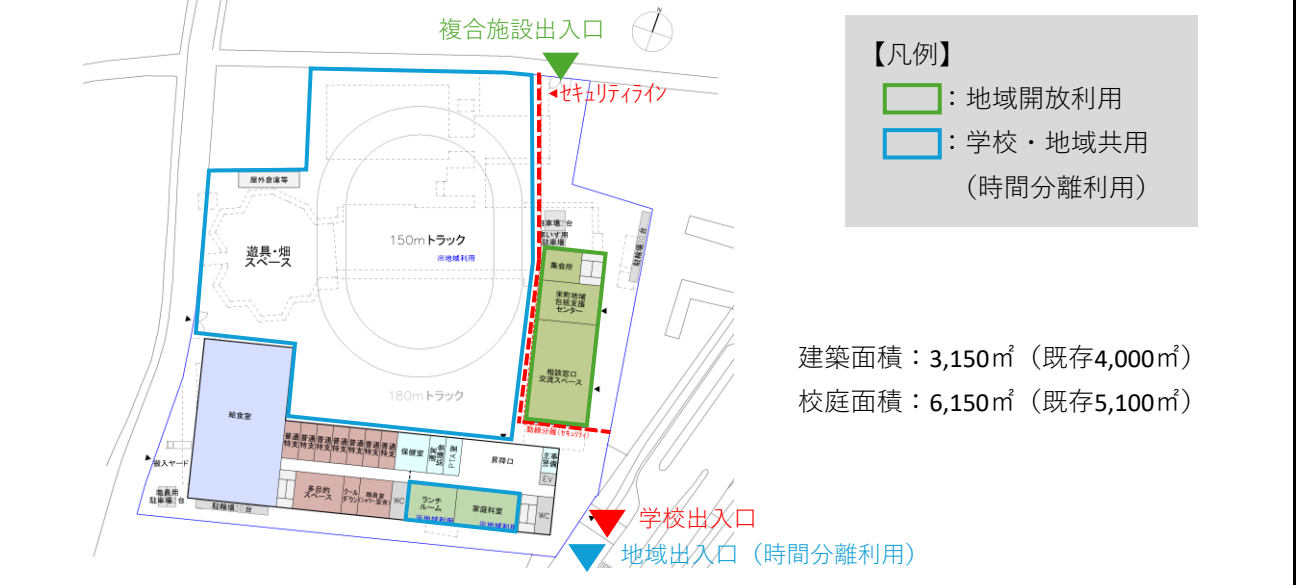
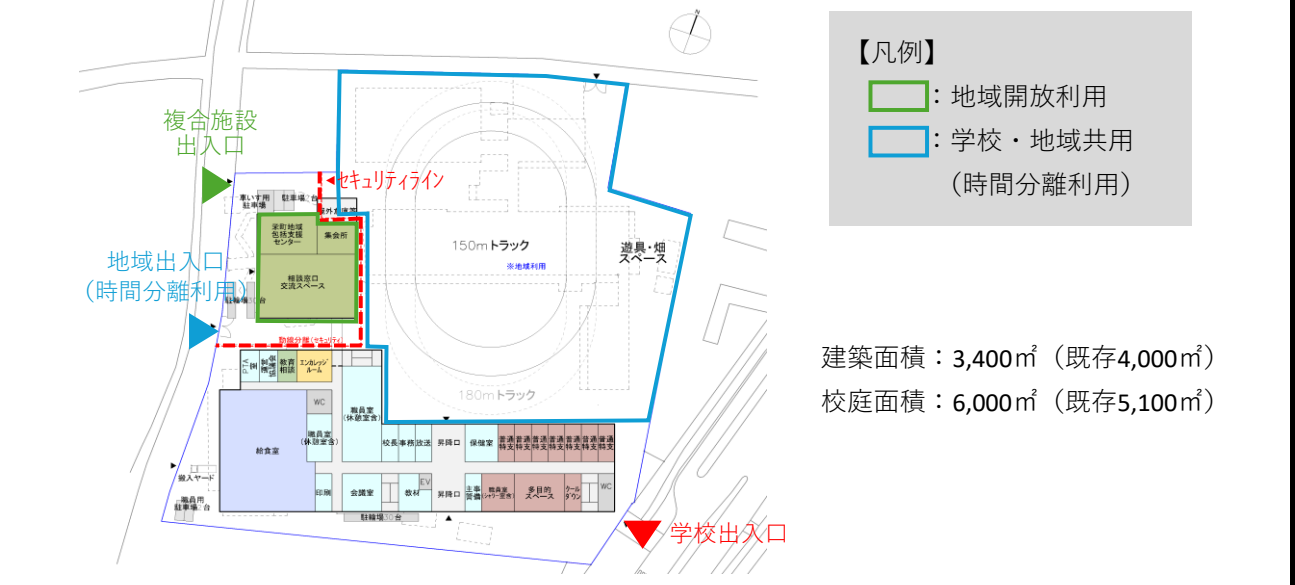


保谷第一小学校 配置比較表

赤字：メリット 青字：デメリット

		B案 南側校舎 仮設なし 蜂の巣校舎活用 二期工事	C案 南側校舎 仮設なし 東校舎活用 二期工事
配置		 【凡例】 □：地域開放利用 □：学校・地域共用（時間分離利用） 建築面積：3,150㎡（既存4,000㎡） 校庭面積：6,150㎡（既存5,100㎡）	 【凡例】 □：地域開放利用 □：学校・地域共用（時間分離利用） 建築面積：3,400㎡（既存4,000㎡） 校庭面積：6,000㎡（既存5,100㎡）
概要		既存校舎を避けた位置に新校舎(学童・一部の管理諸室・複合施設以外)を建設し、既存校舎を解体後、残りを建設する案。学童・一部の管理諸室は、一時的に蜂の巣校舎を仮設利用する	既存校舎を避けた位置に新校舎(学童・複合施設以外)を建設し、既存校舎を解体後、残りを建設する案。学童は、一時的に旧東校舎を仮設利用する
既存校舎の改修		蜂の巣校舎を改修する事業費が増加（約1.8億円+α） ※旧校舎と蜂の巣校舎の切断及び外壁の造成などを㎡単価（30万円/㎡）から仮算定	東校舎改修ぶん事業費増加（約1.2億円+α） ※東校舎の水回りの整備などを㎡単価（30万円/㎡）から仮算定
供用開始時期(目安)		南校舎：令和13年度、複合施設：令和16年度、校庭：令和17年度	南校舎：令和13年度、複合施設：令和16年度、校庭：令和17年度
教育環境 (工事中)	学習環境	学習環境に工事範囲が近接、騒音・振動の発生への配慮必要	学習環境に工事範囲が近接、騒音・振動の発生への配慮必要
	学校運営	管理諸室と学校諸室(普通教室等)が離れた位置になる 蜂の巣校舎の仮設利用時、蜂の巣校舎に隣接する旧校舎の解体工事や解体後の外壁工事が必要となることから、管理諸室や学童クラブに対して騒音・振動の影響が大きい	管理諸室(職員室等)と学校諸室(普通教室等)は、1期工事目でまとまって整備される 東校舎の仮設利用時、旧校舎の解体工事に伴う騒音・振動は生じるものの、東校舎と旧校舎解体工事との離隔を確保できるため、影響は比較的小さい
	工事期間	計5.5年(プール解体0.5年 新校舎建設1.5年 旧校舎解体1.5年 複合建設1年 解体0.5年 外構0.5年)	計5.5年(プール解体0.5年 新校舎建設1.5年 旧校舎解体1.5年 複合建設1年 解体0.5年 外構0.5年)
	校庭 使用制限	計5.5年 使用制限（一部利用不可5.0年、全面不可0.5年） 工事期間中は校庭の一部を利用可能(旧校舎解体後拡大)	計5.5年 使用制限（一部利用不可5.0年、全面不可0.5年） 工事期間中は校庭の一部を利用可能(旧校舎解体後拡大)
	体育館 使用制限	制限なし(旧体育館2年)	制限なし(旧体育館2年)
教育環境 (完成後)	進入動線	児童と地域の方の動線が重なる場合がある	児童と地域の方の動線が重なりづらい
	運動場	180mトラック確保 北側配置、水はけに配慮必要、日陰確保可	180mトラック確保 北側配置、水はけに配慮必要、日陰確保可
	フロア配置	複合施設を含め動線計画が構築しやすく、安全性や利便性が高い	複合施設を含め動線計画が構築しやすく、安全性や利便性が高い（職員室を1階に配置可能）
近隣への 影響 (完成後)	新校舎と 住宅地の距離	既存と異なる配置、南側住宅地からの距離が約5m、東側住宅地からの距離が約6m	既存と異なる配置、南側の住宅地からの距離が約7m
	複合施設と 住宅地の距離	複合施設が東側住宅地付近の配置となるため、東側住宅地への影響がある	複合施設が西側への配置となり、周辺住宅地への影響が小さい（道路を挟んで15mの距離確保可能）
その他	地域開放	地域開放施設と体育館の位置が分散しており、管理がしづらい	地域開放施設と体育館を含む共有施設の配置がまとまっており、管理がしやすい
	工事ヤードの 確保	現場事務所を近隣に確保する等配慮が必要。工事ヤードの確保が可能	現場事務所を近隣に確保する等配慮が必要。工事ヤードの確保が可能